

おかげさまで10周年。KBS創研は、知識 [Knowledge] と行動 [Behavior] で問題解決 [Solution] を支援します。

7日は二十四節季の「立冬」です。先日まで暑い日が続いていたと思いきや、暦の上では早くも冬到来です。丁度この時期日本海ではズワイガニ漁が解禁になります。またまちなかの百貨店、小売店ではまもなくクリスマス、歳末セールがスタートします。頭を切り替え冬商戦の準備に取り掛かりましょう。 代表取締役 小泉 寿宏



～ドラマによる集客だけで終わらない「妖怪のまち」としてのこだわりが奏功～ 鳥取県 米子・境港 研修旅行報告 ～後編～

前号に続き研修旅行の報告です。

今号では「妖怪のまち」としてすっかり定着した境港市の取り組みを紹介します。一般的にテレビドラマの舞台になると放送時は観光客が増えるのですが、放送終了とともに客足が遠のくのが一般的です。しかしNHKのドラマ「ゲゲゲの女房」の放送で注目された本市は違い放送が終わって久しい今日においても年間270万人もの観光客がこの地を訪れています。

その要因は何かを探ってみました。

ドラマによる集客だけで終わらない、「妖怪のまち」として こだわり続け、入込客を獲得し続ける境港市観光協会様

「ゲゲゲの鬼太郎」の作者である漫画家の水木しげる氏はここ境港市の出身です。

氏の厚意もあり実現した、妖怪のブロンズ像を配した商店街「水木しげるロード」がオープンして今年で20周年になります。20年の月日が過ぎた今日においても来街客数は衰えず、2012年は270万人もの人々が訪れました。その極意を探るべく、境港市観光協会の事務局、福留康次さんから話を伺いました。



【境港市の概要】人口：36,004人。鳥取県最西端。「弓浜半島」の北端に位置し、三方が海に開けている。

Q. 来街客の推移と集客が衰えない要因をお聞かせください。

水木しげるロードがオープンした1993年ではわずか2万人だったのですが、本市で毎年ブロンズ像を設置するのに伴い少しずつ観光客が増え、2000年には61万人、2003年には水木しげる記念館がオープンしたこともあり85万人まで増えました。実は本市においていわゆるハコモノを造ったのはこの記念館だけでして、以降はイベントや企画でマスコミ等の注目を得ることで集客を図り、一躍有名となったNHKドラマ「ゲゲゲの女房」以前の年である2009年で157万人まで増やしてきました。

このドラマの効果は大きく2010年では372万人を記録しました。それ以降はさすがに来街客数は減りましたが、直近の昨年度でも270万人の人が訪れています。色々な取り組みを継続的に行ってきたことが功を奏したのだと思います。

Q. その「色々な取り組み」とは具体的にどのようなことでしょうか。

2005年には、水木しげるロードに自分の名前の入った妖怪

ブロンズ像が置けるよう、一般市民参加型の新たな取り組みを始めました。1体100万円で公募しましたが、結果約30件の申し込みがありました。

翌2006年には、「妖怪検定」「妖怪そっくりコンテスト」さらには「妖怪川柳」を実施しました。妖怪検定は中々難しく初級の合格率は80%程度ですが中級になると10～15%、中級合格がないと受験できませんが上級になるとわずか10名程度しか合格していません。この検定は公式検定ですので履歴書にも書けるのですよ。(笑)

Q. 面白い取り組みが多いですね！その原動力はどこにあるのでしょうか？

当協会の梶田知身会長によるところが大きいです。梶田会長は広島の方で日本通運に勤めておられ、その後日本通運の子会社である境港海陸運送の社長としてこの地にやってきました。同社長時代に境港市を盛り上げようと「妖怪ジャズフェスティバル」を立ち上げるなどの手腕を買われ2004年に当協会の会長に就任しました。米子空港の愛称が「米子鬼太郎空港」になったのも会長の働きかけによるものです。

境港は海産物の水揚げでも有名な地です。新鮮な魚介類が楽しめることは大きな魅力ですがそれでは他の港まちと差別化ができません。「妖怪のまち」としてのこだわり、ユニークなイベント、取り組みの数々、それを継続して実

施する地道な努力が年間 270 万人もの集客をし続ける原動力となっています。周辺に宿泊施設が少ないことから現時点では短時間でも楽しめる観光地であり、広域連携を重視していることも成功要因のひとつかも知れません。

■視察を終えての感想

境港自体は、もともと魅力的な観光コンテンツが存在したとはいえないまちだと思います。しかしながら広域観光の拠点として他地域との連携を重視したこと、水木しげる氏の厚意を大切に「妖怪のまち」に育て上げるべく地道な取り組みを継続し続けたことが成功の要因であると受け止めました。恵まれた観光資源がない、予算がない、そんな中でも創意と工夫で観光振興が図れることを境港市は教えてください。是非一度、境港を訪れてはいかがでしょうか。戦略性と地道な努力は観光業界に係わらず全ての業界の経営に求められています。その答えがここに 있습니다。



境港市観光協会事務局の福留康次様と。(左から二人目)

TOPICS

■京都大学経営管理大学院よりインターンシップ生を受け入れました。

9月17日(火)から20日(金)の4日間、京都大学経営管理大学院に在学する松尾光良さん、中国からの留学生謝越さんの2名をインターンシップとして受け入れ、日本の観光業界の構造と課題をレクチャーするとともに、旅行会社へのコンサルティングの現場への同行、ふるさと応援隊による旅行会社への営業活動の参加、そしてシティホテルの最前線の視察を行いました。大学院の講義では学べない現場体験に両名からも喜びの声を頂き、対応したKBSスタッフにとっても充実したひと時でした。



京都大学経営管理大学院 謝越さん (写真左) と松尾さん (写真右)



旅行会社でのインターンシップ風景

■日本の「お・も・て・な・し」を世界に発信！

一般社団法人海外産業人材育成協会（HIDA）の外国人研修生に「ホスピタリティ・ビジネス講座」を実施しました。

一般財団法人海外産業人材育成協会（HIDA）は、主に開発途上国の産業人材を対象とした研修および専門家派遣等の技術協力を推進する人材育成機関であり、これまでも多くの海外の人材の研修を行い、日本と海外諸国相互の経済発展に貢献するとともに、友好関係の増進にも寄与しております。同社ではサービス分野の研修も強化していくこととなり、この度 KBS 創研では、「おもてなし」に関する研修を担当させていただいております。当研修では、「おもてなし」と「サービス」の違いやその事例、またおもてなしが重要視される日本の特徴などを学んでいただいております。



タイからの研修生（手前）と当社代表小泉との講義のひとつ



フィリピンからの研修生（左から2番目）と通訳さん（右）、HIDA スタッフ（左）のみなさんと

これまでにタイやフィリピンの研修生を担当させていただきましたが、共通しているのは、みな真剣でキラキラと輝く目と多くのことを吸収しようとする気迫を感じました。日本が誇る「おもてなし」をお伝えするとともに、改めて私たちの業界の仕事を見つめ直す機会となっています。

編集後記

年間 270 万人もの観光客が訪れる鳥取県境港市。ところが水木しげるロードがオープンした 1993 年では観光客はわずか 2 万人だったといいます。その後、水木しげる記念館オープン、NHK ドラマ「ゲゲゲの女房」、名前入り妖怪ブロンズ像の公募、妖怪検定、妖怪川柳など妖怪にエッジを立てて展開。こだわりと継続。観光まちづくりに学ぶところ大です。(増田)

株式会社 KBS 創研

本社・西日本営業部：〒661-0003 兵庫県尼崎市富松町1-9-15-103 TEL:06-6423-5561/ FAX:06-6423-5571
東日本営業部：〒103-8246 東京都中央区日本橋2-6-5 日本橋2丁目ビル6階 TEL:03-6453-9088/ FAX:03-6453-9089
＜関連会社＞ネクストサポート株式会社（事業再生コンサルティング）
〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-6-20 マスイビル6階 TEL:06-6282-7226/ FAX:06-4707-3855
特定非営利活動法人 ふるさと応援隊（着地型観光支援事業）
〒604-0044 京都市中央区小川通押小路下ル古城町376-205 TEL:070-6928-0602

- 代表取締役：小泉寿宏
- 事業内容：観光・サービス業の経営支援
- 設立：2004年4月
- 地域オフィス：関西・東京